

目標

若者や子育て世代へ向けた情報発信チャンネルの確立

AIインフルエンサー「ももね」を活用し、子宮頸がん、梅毒及びインフルエンザ等集団発生傾向の高い感染症の予防等に関する行政からの正しい情報をSNSで発信する

現状

子宮頸がん

- ・ 毎年約1万人が罹患、約3,000人が死亡
- ・ 8年間の積極的接種勧奨中断の影響で、HPVワクチンの接種率が低迷

梅毒

- ・ R7年岡山県の人口当たりの感染者数は全国第4位
- ・ 不妊や母子感染による先天性の障害の原因になる

HIV

- ・ 岡山県の新規HIV感染者・エイズ患者は20～40代が中心
- ・ 5割以上が男性間性交渉者

感染症

- ・ インフルエンザや腸管出血性大腸菌感染症の流行期には注意報や警報の発令による注意喚起を実施

梅毒・HIV検査にR8年度から郵送検査を導入

AIを活用してSNSで正確な情報を分かりやすく発信

AIで変わる感染症予防啓発事業

- ・ HPVワクチン関連情報
- ・ 9価ワクチンのメリット
- ・ 子宮頸がん検診の必要性

- ・ 性感染症の症状・予防・検査・治療
- ・ 郵送検査のメリット

- ・ 早期発見・早期治療にかかる普及啓発を強化
- ・ 検査機会を拡大

- ・ 感染症の流行状況
- ・ 自身や家庭でできる体調管理や感染症対策
- ・ 予防接種関連情報

効果

県民が正しい知識に基づき、正しい予防法を選択

HPVワクチン接種率や検診受診率の向上

子宮頸がん患者の減少

まん延防止次世代を守る

医療ひっ迫を防ぎ、社会生活への影響を最小化

インフルエンザ等の流行を抑える